



新しい動物の輸入

1952年、動物園はゾウ、レオパード、クマ、ライオンなど、多くの動物を購入しました。50年代の後、台北市立動物園は日本の動物園との間で、頻繁に動物購入、あるいは交換・寄贈を行いました。これらの中で最も有名な出来事はキリンの輸入でした。キリンが長い首を上から下に向けて見物客を見る姿を期待して、多くの来園者が家族全員を連れてきました。

キリンの母親 チャン チュン（長春）は、無事オスの赤ん坊を産み、その後の続く2年に、2頭の弟であるチャン ショウ（長寿）とチャン チン（長青）を産みました。これらの出来事は新聞の大見出しの話題となりました。



動物の公演

人気になるにつれ、動物公演が週末や休日に常に催されました。それらの動物のスターには犬、サル、ライオン、クマ、オウムあるいはヤマムスメが含まれていました。娯楽がなかった当時、動物の公演は人々の驚きと笑いをもたらしました。動物公演は30年後の1979年に終了しました。

伝説の蔡園長

蔡清枝氏（ツアイ チン チ）は動物への情熱を注いだ若い時代に、動物の調教を学ぶため、日本や韓国へ行きました。彼は台湾に戻って、台北市立動物園で働き、今では伝説として語られているトラの調教や蛇のボア捕獲の事件以上に動物園の管理運営に大きな足跡を残しました。彼は1957年から1969年の間、動物園の園長を務め、動物保護協会を設立しました。



蔡園長とゾウ